

2026年10月30日
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

各位

サステナビリティレポート 2026/27、気候変動・自然資本レポート 2026/27 の発行について

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社(取締役社長:小林 隆宏、以下「当社」)は、本日、「[サステナビリティレポート 2026/27](#)」(以下、サステナビリティレポート)をウェブサイトにて開示しましたので、お知らせいたします。

サステナビリティレポートの「SMTAM のコーポレート・サステナビリティ」では、当社がどのように価値を創造し、それをどのように提供するのか、そして、そのための経営基盤をどのように強化するのかという一連のストーリーに沿って、当社の考え方や取り組みを紹介しています。また、「SMTAM のスチュワードシップ活動」では、例年通り当社のスチュワードシップ活動に対する考え方や活動方針、実際の取り組み内容やその実績について説明するとともに、社外協業先との鼎談や、投資先企業のトップを迎えた鼎談など、多様な視点を取り入れたコンテンツを掲載しています。

サステナビリティレポートにおける前年版からの変化、また、ご注目いただきたいコンテンツは以下の通りです。お客さまをはじめとした幅広いステークホルダーの皆さまに、当社のサステナビリティ活動に対するご理解を深めて頂ければ幸いです。

- オンラインでの閲覧時の利便性を意識したフォーマットの変更とインタラクティブ機能の導入
- 用語集の導入や写真・図表を生かした紙面構成による分かりやすさの向上
- 社外取締役からのメッセージ(「FD/お客さま本位の業務運営」、「人的資本経営」)
- プロダクトガバナンスの実践に関する担当者からのメッセージ
- 自然資本開示(TNFD)と企業価値創造をめぐるエンゲージメント(社外協業先との鼎談)
- 「不平等・社会関連財務情報開示タスクフォース(TISFD)」と当社の取り組み
- 投資先企業のトップを迎えた当社担当者との鼎談
- 当社のエンゲージメントの効果

また、当社はこれに先立つ10月5日、気候変動・自然資本レポート 2026/27 をウェブサイトにて開示しました。前年版からの変化、ご注目いただきたいコンテンツは以下の通りです。

- 気候変動・自然資本・社会課題(人権や地域社会など)を一体的に捉える「統合的アプローチ」の考え方を採用
- Net Zero Investment Framework(NZIF、投資家がネットゼロ戦略や移行計画を策定する際に広く参照されている投資家向けガイダンス)を活用し、国内外運用ポートフォリオの脱炭素化の進捗を評価

- [株式会社シンク・ネイチャー](#)との協働を通じて、国内株式運用ポートフォリオの自然資本関連財務リスクについて定量評価を実施

当社は、コーポレートとしてのサステナビリティ活動、および運用部門におけるスチュワードシップ活動、および情報開示をフィデューシャリー・デューティの要と位置付け、「責任ある機関投資家」としての役割を適切に果たしてまいります。

以上